

年 報

(平成22年度)



冠雪の月山と紅葉

林 野 庁 東北森林管理局
朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

目 次

活動状況概要	1
朝日山地森林生態系保護地域の保全管理	3
緑の回廊における取組	6
庄内海岸林等の保全活動	9
森林環境教育の推進	11
各種イベント	16
生物多様性把握の取り組み	18
関連新聞記事	19

平成22年度 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターの活動状況(概要)

活 動 事 項	取 組 内 容
(1) 朝日山地森林生態系 保護地域の保全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○管理委員会(6/21) ○巡視員会議(6/26、11/20) ○合同パトロール(7/31～8/1) ○広域の動態把握手法の調査検討委員会(12/7、2/15) ○七曲ショートカット標識設置(6/3) 撤収(10/14) ○モニタリング看板撤去(朝日二又10/22、根子川11/19) ○スノーモービル乗入に関する関係団体との意見交換(12/16、20) ○スノーモービル実態調査等(4/2、12、25、5/5) ○朝日連峰保全協議会(5/26) ○スノーモービル看板設置(山毛樺峠)(3/18)
(2) 緑の回廊における取 組	<ul style="list-style-type: none"> ○土湯の森自然再生実施協議会(6/2) ○土湯の森自然再生の取組 <ul style="list-style-type: none"> ①森林再生ゾーンでの更新補助作業(刈払い)(7/28) ②モニタリング調査(10/9) ③ナラ枯れ被害木の伐倒とキノコのコマ打ち(職員実行11/12)
(3) 庄内海岸林等の保全 活動	<ul style="list-style-type: none"> ○森林ボランティア活動支援 <ul style="list-style-type: none"> ①クロマツ林を守る活動(酒田一中・五中、6/14) ②JTの森森林整備(6/19、10/30) ③クロマツ林整備(チョッキン草刈り隊)(6/24) ④光ヶ丘松林整備ボランティア活動(9/25) ⑤遊佐中学校:森林整備体験学習(10/8) ⑥「砂防林を育てよう」飯森山森林整備(11/6) ⑦遊佐町藤崎クロマツ林整備(12/5) ○「出羽庄内公益の森づくりを考える会」 (第1回:5/24、第2回:8/27、第3回:2/21) ○第6回クロマツシンポジウム(2/19) ○万里の松原に親しむ会総会(4/11) ○庄内海岸のクロマツ林をたたえる会総会(3/31)

活 動 事 項	取 組 内 容
(4) 森林環境教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○朝日自然塾プログラムの開講(6回:5/22、6/12、25、7/10、9/25、2/26) ○朝日自然塾連絡協議会(11/26～27) ○野鳥観察会(松陵小学校11/16) ○巣箱づくり(万里の松原に親しむ会)(11/18) ○みどりの保育園(西荒瀬保育園) (13回:4/27、5/8、5/25、6/5,24、7/13、9/14,22、10/13、11/2,11、12/20、2/16) ○森の遊えんち(共催、朝日村観光協会主催)(2回:6/13、8/7、3/5 荒天中止) ○置賜森林病虫害獣対策研修会(同協議会)に講師派遣(9/28) ○森林環境セミナー(山形県海浜自然の家)に講師派遣(10/24) ○ボランティアリーダー研修(山形県庄内総合支庁)に講師派遣(2/21) ○山形県山岳連盟登山部研修会に講師派遣(2/26)
(5) 各種イベント等	<ul style="list-style-type: none"> ○庄内森とみどりのフェスティバル(鶴岡会場)(10/16、17) ○庄内森とみどりのフェスティバル(酒田会場)(10/24) ○庄内あさひコウモリフェスティバル2010(8/28－29) ○森のようちえん東北交流フォーラム in Tsuruoka(11/6－7) ○山形県国有林野等所在市町村長有志協議会(8/9) ○山形県森林協会総会(5/18) ○庄内地方林業振興協議会(5/11) ○高館山自然休養林管理運営協議会総会(5/11) ○鶴岡市朝日地域山岳遭難救助対策委員会(6/28) ○月山地区山岳遭難・山林火災対策協議会(7/27) ○万里の松原奥の細道古道開通式(7/29) ○月山ダム水源地域ビジョン推進協議会(1/8) ○庄内地域森づくり報告会(2/6) ○安全祈願祭(山開き:朝日連峰:5/30、6/20、月山:7/1) (湯殿山スキー場:12/4)
(7) 広報	<p>広報誌の発行 1回(7/29)</p> <p>ホームページ 随時更新</p> <p>(4/1,5,8,15,28、5/7,12,31、6/1,8,9,12,18,28、7/1,2,12,15,21,29、8/24、9/17,28、30、10/12,18,19,25,27、11/4,9,15,24,30、12/8,21、1/4,11、2/17,25、3/10,18)</p> <p>http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/index.html</p>

1 朝日山地森林生態系保護地域の保全管理

管理委員会（6月）

朝日山地森林生態系保護地域管理委員会を6月21日（月）、山形市のあこや会館において開催。ボランティア巡視活動、モニタリング調査や管理計画の変更などについて論議。

管理計画の変更については、第二期となり拡張されたモニタリングに対応する記述に改めるとともに、スノーモービルへの対応について明文化することを決定。



巡視員会議（春季）

朝日山地森林生態系保護地域の夏山シーズンの巡視活動を前に、6月26日（土）、春季巡視員会議を鶴岡市（旧朝日村）の朝日山村開発センター（すまいる）で開催。新たに登録された6名の巡視員への委嘱状交付の後、今年度の活動方針などについて意見交換を実施。

会議終了後は第2部として、「森林の生物多様性について」と題して当センター所長青山が講演。



合同パトロール

朝日山地森林生態系保護地域の保全管理の取組として、7月31日（土）～8月1日（日）に巡視員と国有林関係者による合同パトロールを5ルートで実施。各コースとも入山者へのマナー指導とゴミの回収を行いながら、保全管理に係わる事項について点検を行った。

ルート	月日
大鳥池-以東岳	7月31日～8月1日(6名)
祝瓶山	8月1日(6名)
御影森	7月31日(6名)
朝日川(黒俣沢・朝日俣沢)	8月1日(4名)
三方境-以東岳-泡滝ダム	7月31日(3名)



朝日川



大鳥池-以東岳



祝瓶山



御影森

巡視員会議(秋季)

朝日山地森林生態系保護地域巡視員会議(秋季)を11月20日(土)に山村開発センター(すまいる)で開催。巡視結果に対する意見交換等が行われ、特に七曲ショートカットへの取り組みについて活発に議論された。会議終了後は勉強会として「ブナの森は遊えんち！未就学児に学ぶブナの森の魅力」と題してあさひむら観光協会の上山剛司氏による講演を実施。



講師の上山氏

スノーモービル乗り入れ実態調査

朝日山地森林生態系保護地域及び月山周辺におけるスノーモービルの乗り入れについて、4月25日(日)、5月5日(水)に月山周辺、4月2日(金)、12日(月)にAsahi自然観スノーパーク、5月5日(水)に山毛櫛峠周辺において、実態調査並びにマーナーガイドを用いた啓発活動を実施。森林生態系保護地域への乗り入れは月山周辺、鳥原山方面への入口とも確認されなかった。また、3月18日(金)に山毛櫛峠付近に乗り入れ自粛を求める看板を仮設置した。



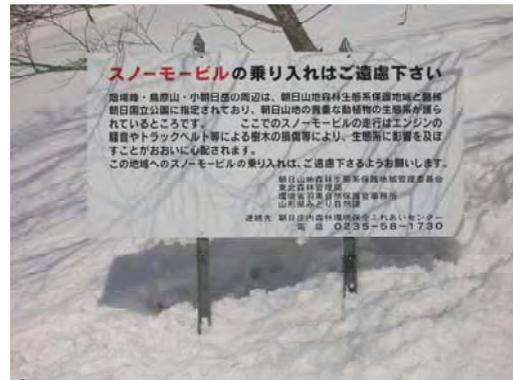
急斜面についたトラックベルト跡



山スキーで調査



山毛櫛峠付近に仮設置した看板



広域の動態把握手法の調査検討委員会

かねてから管理委員会において必要性が指摘されていた、気象、森林被害、土壌浸食、植生の推移等から生態系保護地域のより広域の動態を把握するための手法について、委託により検討を実施。その過程で各関係分野の専門家による検討委員会を開催。第1回検討委員会は12月7日(火)に山形市自治会館において、第2回検討委員会は2月15日(火)に山形市山形テラサにおいて開催され、この検討結果を踏まえて次年度以降の調査を計画することとなった。



自治会館で行われた第1回検討委員会

2 緑の回廊における取組

第4回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会

6月2日（水）に戸沢村役場において開催。今回は再生活動実施箇所の上川スキー場跡地において、森林再生ゾーン（植付区・刈払区）・自然推移ゾーンの各箇所の植生の回復状況等について現地確認を行った後に、戸沢村役場会議室で協議会を実施。

協議会では、昨年度の事業報告と本年度の事業計画等について協議を行い、委員から植付区の補植について指摘されたほか、「この取組は自然再生活動と森林環境教育を組み合わせる実施しているのが特徴であり、多くの生徒が参加できるよう工夫が必要」「継続性のある内容で実施することが重要」等の意見が交わされた。また秋季の活動についてはナラ枯れ等の被害状況や周辺工事の状況に応じて柔軟に対応することが確認された。



現地確認を終えて

「土湯の森」自然再生の取組

～森林再生ゾーンでの更新補助作業（刈り払い）～

7月28日（水）、生育しているカエデ類などの稚幼樹の保育や更新補助を目的にスキ等の刈り払いを行った。神室山系の自然を守る会、山ノ内地区会、最上広域森林組合、里の自然文化共育研究所、最上総合支庁の参加を得、事務局である戸沢村及び当センター職員をあわせ27名での実施となった。作業終了後、「幻想の森」にて観察会を行った。



炎天下での刈り払い



幻想の森の観察

～ナラ枯れ被害木の伐倒とキノコのコマ打ち～

昨年に引き続き、カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害木の処理を実施。カシノナガキクイムシの幼虫は枯損木の中で成長し翌夏羽化して被害を拡大するため、この住み家を短尺処理により乾燥させて駆除し、あわせて森林環境教育として虫害のない伐倒木上部にシイタケやナメコなどキノコのコマ打ちをおこなうもの。

案内ビラを配りボランティアの参加を得て実施の予定であったが、当初予定日、延期日とも荒天であったため公開での活動を断念し、11月12日（金）に職員により実施。最上森林組合と一部協議会委員にもご協力いただいた。



スキー場跡地のナラ枯れ被害木

～モニタリング調査～

10月9日（土）、山形大学農学部の高橋教夫教授と学生をはじめ、地元自治会や一般ボランティアの方々の協力を得て、4回目の植生モニタリング調査を実施。

発生稚樹を把握するために設定した4プロット（森林再生ゾーン〔刈払区①、対象区②〕、自然推移ゾーン〔③、④〕）と、植栽したブナ等の稚樹を対象。

調査結果をみると、森林再生ゾーンの発生稚樹は、前年同様30cm未満のスギが大半を占めているものの、刈払区では31cm以上に成長したものが1/3を越え刈払いの効果が認められた。一方、自然推移ゾーンは前年同様順調な更新を示しているものの、31cm以上のヤナギの稚幼樹が8本とまとまって消失していた。

また、植栽木の調査では、正常活着率は平成20年植栽箇所45%、平成21年植栽箇所70%と悪化し、先枯れにより苗高も低下していた。夏季の高温乾燥が原因と考えられる。



ご協力いただいた方々



生長調査

センサーカメラによる動物調査

土湯の森周辺の動物相を把握する目的で平成22年7月6日～11月25日までセンサーカメラを設置。有効撮影枚数419枚中76枚にカモシカなど7種の哺乳類と1種の鳥類（ヤマドリ）が記録された。



タヌキ



キツネ



ハクビシン



テン



アカネズミ



リス



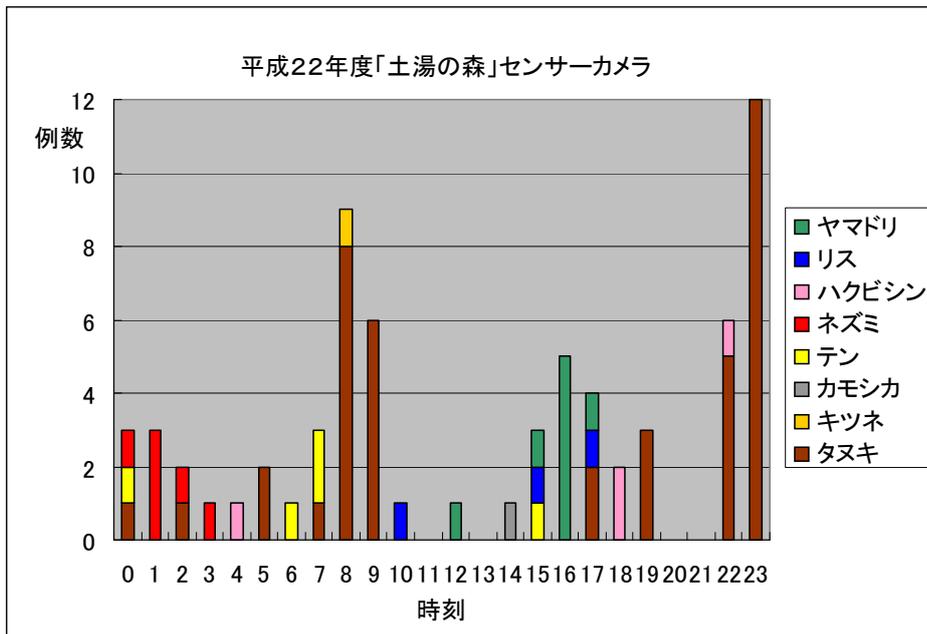
カモシカ



ヤマドリ



ガ



3 庄内海岸林等の保全活動

◎森林ボランティア活動の支援

～チョッキン草刈り隊～

6月24日（木）、酒田市宮海の新林国有林内のクロマツ植栽箇所、「みどりの保育園」の一環として西荒瀬保育園児37名と保護者31名が下刈り作業を実施。作業指導の森林管理署・山形県・酒田市の職員などを加え、80名が参加。

保育園児に鎌を使っての下刈り作業は危険なので、保護者達が鎌で筋刈りした後に、植栽木周辺をハサミで刈り払って仕上げを行った。



～中学生の森林整備ボランティア活動～

一中・五中森林整備

6月14日（月）、酒田市立第一中学校と同第五中学校の一年生182名が、酒田市光ヶ丘の国有林の森林整備（枝打ち）を実施。「庄内公益の森づくりを考える会」の構成員として当センターも指導。



砂防林整備体験学習（遊佐中学校）

10月8日（金）遊佐町十里塚砂丘国有林1142林班のクロマツ林において実施。多くの先人達に生まれ地域の暮らしと産業の基盤になっているクロマツ林の整備を通じて、郷土を愛する心を育てる目的で遊佐町立遊佐中学校が毎年行っている。「庄内公益の森づくりを考える会」の構成員として当センターも指導。



～光ヶ丘松林整備ボランティア活動

9月25日(土)、酒田市主催の光ヶ丘松林整備ボランティアに参加。総参加者数は98名。
当センターは協賛団体として、万里の松原班において鎌による刈払い作業などを指導。



～JTの森づくり活動～

JT日本たばこが、山形県、鶴岡市、下川生産森林組合と協定して、森林整備活動に取り組む「JTの森 鶴岡」。6月19日(土)に行われた第2回目の森林保全活動には190名が、10月30日(土)に行われた第3回目の森林保全活動には176名が参加。当センターも、参加したJT社員や地元市民等に徐伐・下刈りを指導。



～西山地区森林整備ボランティア～

12月5日(日)、遊佐町の稲川・西遊佐地区のクロマツ林で、枝打ち及び残材運搬集積作業等の森林整備ボランティア活動に参加。山形県、遊佐町、西遊佐小学校・稲川小学校みどりの少年団、砂丘地砂防林環境整備推進協議会会員等の地域の方々109名が参加。



4 森林環境教育の推進

朝日自然塾の開講

朝日山地森林生態系保護地域及びその周辺をフィールドとして、森林や自然の働きを体感し自然との付き合い方を学ぶ体験活動型の森林環境教育を実施。22年度は6回計画し6回実施。

第1回プログラム

新緑の白布平ブナ林で森と遊ぼう

5月22日(土)、長井市内の小学生親子6名が参加して飯豊少年自然の家との共催で開催。

スタート地点でサルの歓迎を受けた後、慎重に吊り橋を渡り、新緑のブナ林を散策。みんなで木の洞に入ったり、樹木や草花の話を聞き、ムササビの巣穴も見つけ、珍しい発見に興味津々。お昼には川原で焼いたイワナの塩焼きをほおぼった。

山形県猟友会と小国の自然を守る会の方々が講師を務めた。



ニホンザル



ハッチョウトンボ



オトシブミ

第2回プログラム

カッチャバ湿原で初夏の昆虫観察

6月12日(土)、山形市内の小学生親子14名が参加して開催。カッチャバ湿原では羽化して間もないハッチョウトンボやコオイムシなど様々な昆虫が観察できた。オトシブミが木の葉を巻いているのを見て、小さな虫の力に皆驚いていた。午後は山形から世界の昆虫について標本や生体も見て学んだ。大井沢博物館と山形昆虫同好会の方々が講師を務めた。



第3回プログラム

伝説の大鳥池を訪ねて

6月25日(金)、朝日小学校の5年生30名、先生や父兄、スタッフなども含め総勢47名で、大鳥交流体験学習として実施。

木や草や花、ふしぎな形のキノコや虫を観察しながら、大鳥池を目指した。晴天にも恵まれ、全員元気に山登りの達成感を満喫した。

山形県山岳連盟と出羽三山の自然を守る会の方々が講師を務めた。



雪溪を越えて

第4回プログラム

釣りキチあつまれ！朝日山地で森とイワナを学ぼう



講師の指導で慎重に竿を繰る

7月10日(土)、西川町大井沢で小学生等の親子41名の参加で開催。前日からの雨による増水で安全なポイントが減少していたため、班ごとに交代で釣ることとしたが、ほとんどの子供達が釣果を上げることができた。

午後は、森とイワナにまつわる講師の話の聞き、セミナーハウスの囲炉裏で焼いたイワナを頬張った。山形県溪流釣協議会の方々が講師を務めた。



第5回プログラム

紅葉の葉山で森のふしぎ体験 葉山 御田神 日軍道 いにしへの道を行く

9月25日(土)長井市等の小学生の親子7名が参加して飯豊少年自然の家との共催で開催。当日は、台風12号が日本列島を北上するなか、直前まで開催の可否を検討したが、幸い葉山にほとんど影響がなく予定どおり実施することができた。

天候の回復を期待して登山開始。道幅が広く閃光状の登りやすい朝日軍道に感心。所々で長井市街と散居集落を望み、おけさ堀・嘉永堰・昭和堰等の歴史やウエツキブナハムシの被害等を学びながら登山。頂上付近にも麓に住む人々の古くからの山との係わりを感じることができた。

参加者は元気で足取りも軽く、予定したタイムより1時間も早く無事に下山して閉会した。

講師・サポートとして山形県山岳連盟の長井山岳会と南陽山の会の方々にご協力いただいた。



朝日軍道を行く



姥石で休憩



奥の院で祝瓶山をバックに記念撮影



第6回プログラム

かんじきトレッキングで親雪体験・囲炉裏でマタギの話を聞こう！

2月26日(土)西川町大井沢のセミナーハウスと舎那山において実施。山形市等から小学生の親子19名が参加。カンジキを履いて探検し、一見何ものなさそうな雪山で動物たちがたくましく生きている事や、厳しい自然の中で永々と続いてきた山と人々とのかかわりを学んだ。また、何も道具がなくても身体を思い切り使って遊びを見いだす子供達の姿に、保護者達の目も輝いた。

講師・スタッフとして、西川町大井沢区・山形県猟友会・大井沢自然博物館の方々にご協力いただいた。



セミナーハウスから出発



雪の斜面を元気に登る



舎那山頂上で記念撮影



朝日自然塾連絡協議会

11月26～27日（金・土）西川町大井沢のセミナーハウスで朝日自然塾連絡協議会を開催。22年度のプログラム実施結果と評価、23年度プログラムの策定について意見交換を実施。



みどりの保育園を支援

西荒瀬保育園は山形県みどり環境税を活用して「みどりの保育園」推進事業に取り組んでおり、当センターも当初から協力。特に今年度は庄内森林管理署と協定した、保育園に隣接する遊々の森（しんちゃんの森）を主な拠点に、精力的に森林環境教育を実施。

4月27日（火） 巣箱づくりと野鳥観察

5月8日（土）、6月5日（土）、9月14日（火） しんちゃんの森の森林整備

5月25日（火）、7月13日（火） クロマツ探検隊

6月24日（木） チョッキン草刈隊

9月22日（水） しんちゃんの森でうたおう

10月13日（水） 鳥海山広葉樹林で探索

11月2日（火） 緑の里親事業 10月の観察会で拾った木の実をポットに播種。昨年の苗を植え付け。

11月11日（木） 庄内出羽人形芝居による森林環境教育

12月20日（月）、2月16日（水） 木工クラフト教室。クリスマスツリー、ストラップ等を作成。



巣箱づくり



チョッキン草刈り隊



モックンづくり



しんちゃんの森でうたおう



庄内出羽人形芝居による森林環境教育



クロマツ探検隊

森の遊えんち♪

森の遊えんち♪は、鶴岡市が掲げる「森林文化都市」構想を推進する環境教育プロジェクトで、あさひむら観光協会が主催し、当ふれあいセンターも共催。

6月13日(土)に行われた第4回森の遊えんち♪には、最年少2歳児から10家族25名が来園。初夏の青空の中、どこまでも真っすぐ伸びるブナの木の上を目指し、みんなでロープを使った木登りを楽しんだ。ブナの木についてのツキノワグマの爪痕やエゾハルゼミの抜け殻、葉っぱの大きさなど、普段よりちょっと高い場所から森を観察した。



8月7日(土)に大鳥地区で行われた第7回森の遊えんち♪には、2歳児から7歳までの子供13名、11家族計25名が来園。森の遊えんち♪初めての川遊びを実施。他にも初めての試みとして、「ニジマス掴み」、「スイカ割り」、「冷たいお汁づくり」など朝日地域の夏を満喫した。



野鳥観察会と巣箱づくり

11月16日(火)に松陵小学校が実施した「万里の松原における野鳥観察会」並びに同18日(木)に万里の松原に親しむ会が同校児童を対象に実施した巣箱づくりを指導。

野鳥観察会ではシジュウカラ、エナガ、ウグイスなどが観察され、屋内の勉強会では校庭の木にとまったカラヒヒを児童全員がフィールドスコープで見ることができた。

巣箱づくりでは、シジュウカラ用とアカゲラ用の巣箱を作成。学校に隣接する国有林で既設巣箱の利用状況を確認した後、作成した巣箱を設置した。



森林環境教育用資料の作成

森林環境教育に携わるスタッフ用の資料として「危険な生物」「巣箱づくり資料」を作成し、ホームページに掲載した。

危険な生物 <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/siryou/kikenseib.html>

巣箱づくり資料 <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/siryou/subako.html>

5 各種イベント等

庄内森とみどりのフェスティバル

庄内森とみどりのフェスティバルが、10月16日（土）、17日（日）に鶴岡市で、10月24日（日）に酒田市で開催され、森林・林業関係団体や関係行政機関等、多数の団体等が出展した。当センターもパネル展示等で参加し、センターの取組や活動等をPRした。



鶴岡会場



酒田会場



庄内あさひコウモリフェスティバル2010

コウモリをもっと身近に感じてもらうことを目的に、「庄内あさひコウモリフェスティバル2010」が8月28日～29日に月山あさひサンチュアパークなどで開催。鶴岡市、コウモリの会などをはじめ当センターも共催。

講演会・ミニシンポジウム・観察会などが行われ、当センター所長青山も「庄内のブナの森が育む生きものたち」と題して講演。

夜の部で行われたコウモリ調査見学会では、鶴岡で初記録となった絶滅危惧種クロホオヒゲコウモリが確認され、話題となった。



夜のブナ林でコウモリ観察会



森のようちえん東北交流フォーラム in Tsuruoka

未就学児の自然環境教育のあり方を考えるフォーラム「森のようちえん東北交流フォーラム in Tsuruoka」が11月6日（土）～7日（日）に大鳥自然の家で開催。つるおか森の保育研究会が主催し、鶴岡市、あさひむら観光協会等をはじめ当センターも共催。

「幼児期に自然体験活動をする意味」と題した大阪大谷大学の井上美智子教授の基調講演等の後、分科会、ワークショップ、フィールド視察などが行われた。分科会「森林の専門家伝える森のようちえんのための森づくり、安全管理」では当センター大内自然再生指導官も発表した。



森のようちえん
 森林文化都市・鶴岡で考えよう！ 幼児の自然環境教育のあり方

開催日 2010.11.6(土)・7(日)

開催場所 鶴岡市大鳥自然の家

基調講演 「幼児期に自然体験活動をする意味」
 井上 美智子 氏 (大阪大谷大学教授)

講師 馬渡 達也 氏 (くろま高原自然学校 / 多世代はうす 文字倶楽部)
 *他、自然学校、保育園で森のようちえん実践者

対象 未就学児の自然体験活動の実践者及び
 それらの活動に対して興味のある方 約 80 名

参加費 参加料は 全日 1,000 円、一日のみ 500 円
 *宿泊費、食事代については裏面を参照！

申込方法 お申し込み・お問い合わせは下記のいずれかの方法でお願いします。
 山形県鶴岡市役所子育て推進課 安達 宛
 FAX: 0235-25-2187
 E-mail: kosodate@city.tsuruoka.yamagata.jp

主催: つるおか森の保育研究会
 共催: 鶴岡市、あさひむら観光協会、東北森林管理 鶴岡庄内森林環境センター、環境教育 UUKI、NPO法人あさひ子育て推進センター、山形県、鶴岡市教育委員会、森林文化都市研究会、(社)鶴岡市社会福祉協議会、山形大学農学部、山形県森林センター、NPO法人あさひむら観光協会、NPO法人あさひむら観光協会、鶴岡市自然環境推進部、鶴岡市自然環境推進部

6 生物多様性把握の取り組み

ホームページに「朝日庄内いきもの図鑑」を掲載。

<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/shasinkan/zukan.html>

東北森林管理局

ホーム > 森林管理長の案内 > 森林管理職の概要 > 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター > 朝日庄内いきもの図鑑

朝日庄内 いきもの図鑑

朝日庄内いきもの図鑑

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターの活動地域内で確認した動植物です。
 ● 画像をクリックすると、大きな画像が別ウィンドウで開きます。
 ● 種の特定には限りあるかも知れませんが、お見付きの方はご連絡ください。

随時更新しています。

<p>図類(きのこ・地衣類)</p> <p>植物</p> <p>蕨類類</p> <p>シダ・裸子植物</p> <p>被子植物</p> <p>動物</p> <p>脊索動物門</p> <p>哺乳綱</p> <p>鳥綱</p> <p>は虫綱・両生綱・魚類</p> <p>節足動物門</p> <p>昆虫綱</p> <p>チョウ目</p> <p>コウチュウ目</p> <p>トンボ目</p> <p>ハエ目</p> <p>ハチ目</p> <p>ハクダ目・カマキリ目・ハサミムシ目</p> <p>カメムシ目</p> <p>その他</p> <p>クモ綱</p> <p>その他節足動物</p> <p>軟体動物等</p>	
---	--

レッドデータカテゴリ	
CR	絶滅危惧Ⅰ類
EN	絶滅危惧Ⅱ類
VU	絶滅危惧Ⅲ類
NT	準絶滅危惧
赤字: 国 青字: 山形県	

	<p>ハイタカ <i>Accipiter nisus</i> ＜灰鷹＞ タカ科</p>		<p>ハチ: Perni: ＜蜂イ タカ科</p>
	<p>トビ <i>Milvus migrans</i> ＜鷹＞ タカ科</p>		<p>トビ <i>Milvu</i> ＜鷹: タカ科</p>
	<p>イヌワシ <i>Aquila chrysaetos</i> ＜狗鷲＞ タカ科 EN CR</p>		<p>クマタ <i>Spiza</i> ＜熊鷹 タカ科</p>

キジ目

	<p>ヤマドリ <i>Symycticus soemmerringii</i> ＜山鳥＞ キジ科</p>		<p>ヤマト <i>Symc. soem.</i> ＜山鳥 キジ科</p>
	<p>キジ(♂) <i>Phasianus versicolor</i> ＜雉子＞ キジ科</p>		<p>キジ(♀) <i>Phasi:</i> ＜雉: キジ科</p>

	<p><i>Nyctalus arborator</i> ＜山蝙蝠＞ ヒナコウモリ科</p>		<p><i>Myotis serripennis</i> ＜長尾蝙蝠＞ ヒナコウモリ科</p>
	<p>ユビナガコウモリ <i>Myotis serripennis</i> ＜長尾蝙蝠＞ ヒナコウモリ科</p>		<p>コヤングコウモリ <i>Myotis serripennis</i> ＜小穴長尾蝙蝠＞ ヒナコウモリ科</p>

サル目

	<p>ヒト <i>Homo sapiens</i> ＜人＞ ヒト科</p>		<p>ニホンザル <i>Macaca fasciata</i> ＜日本種＞ オナガザル科</p>
--	---	--	--

ネコ目

	<p>タヌキ <i>Nyctereutes procyonoides</i> ＜狸＞ イヌ科</p>		<p>タヌキ <i>Nyctereutes procyonoides</i> ＜狸＞ イヌ科</p>
	<p>ホンダネコ <i>Felis vulgipes japonica</i> ＜本土猫＞ イヌ科</p>		<p>ノネコ <i>Felis concolor</i> ＜野猫＞ ネコ科 イヌ科</p>
	<p>テン <i>Martes melampus</i> ＜鼬＞ イタチ科</p>		<p>テン(朝鮮) <i>Martes melampus</i> ＜鼬＞ イタチ科</p>

	<p>アオアレクワガタ <i>Dorcus rubrofemoratus</i> ＜赤脚鍬形＞ クワガタムシ科</p>		<p>コクワガタ <i>Dorcus rufus</i> ＜小鍬形＞ クワガタムシ科</p>
	<p>コクワガタ <i>Dorcus rufus</i> ＜小鍬形＞ クワガタムシ科</p>		<p>コクワガタの産卵痕</p>
	<p>スジクワガタ <i>Dorcus striatipennis</i> ＜縞鍬形＞ クワガタムシ科</p>		<p>スジクワガタ <i>Dorcus striatipennis</i> ＜縞鍬形＞ クワガタムシ科</p>
	<p>ノコギリクワガタ <i>Proscopocoelus inclinator</i> ＜鋸鍬形＞ クワガタムシ科</p>		<p>ノコギリクワガタ <i>Proscopocoelus inclinator</i> ＜鋸鍬形＞ クワガタムシ科</p>
	<p>ヒヤマクワガタ <i>Lucanus maculipennis</i> ＜深山鍬形＞ クワガタムシ科</p>		<p>ヒヤマクワガタ <i>Lucanus maculipennis</i> ＜深山鍬形＞ クワガタムシ科</p>

コガネムシ科

	<p>ヒメヒロドコガネ <i>Melolontha orientalis</i> ＜姫天竺蛸黄毒虫＞ コガネムシ科</p>		<p>ヒメヒロドコガネ <i>Melolontha orientalis</i> ＜姫天竺蛸黄毒虫＞ コガネムシ科</p>
	<p>ハイヒロドコガネ <i>Paranotopispa</i> ＜色変天竺蛸黄毒虫＞ コガネムシ科</p>		<p>ウロコガネ <i>Hydrophilus piceus</i> ＜黒真鍮＞ コガネムシ科</p>

平成22年度

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター 関連新聞記事

森 明るくなった

「J.Tの森 鶴岡」に190人 下刈りや除伐作業に汗

日本たばこ産業（J.T）がなどと協働で行う森林保全活動。同市のいこいの村庄内周辺の
県や鶴岡市、地元の森林組合「動」J.Tの森 鶴岡が19日、松林で行われた。J.Tグループ



のこぎりを手に作業を行う参加者
＝鶴岡市

の社員や地元住民ら約190人が下刈りや除伐などのボランティア活動に汗を流した。
「J.Tの森 鶴岡」は松くい虫による松枯れ被害などで荒廃が進む森林を保護する取り組み。昨年からは実施しており、2014年3月まで同市下川の県有林と市有林、民有林の計約25公顷でクロマツ主体の砂防林を整備する。
この日は約0.4公顷で作業を実施。参加者はのこぎりやかまを使い、クロマツなどの成長にとって障害となる草木を取り除いた。大山小6年佐藤穂菜美さん（11）は「木が太くて、のこぎりで切るのが難しかった。余計な草がなくなつて森が明るくなった感じがする」と話していた。
同所での森林保全活動は今秋も行う予定。

クロマツ林も心もさわやか

酒田北高
全校生徒

枝打ちなどボランティア活動

酒田市の酒田北高（富）し、地元の歴史を知ると、
椋部選校長の全校生徒とともに、次世代に引き継ぐことの意味を感じ取って、
近頃の国有林で枝打ちや下刈りなどのボランティア活動を繰り返した。
先人が残した美しいクロマツ林を守る活動を通して、
この日の現場は、
国道7号宮海高架橋そばの国有林。梅雨の晴れ間が広がる下、生徒たちは
ヘルメット姿でやぶ状態の林間に入り、同市の環境保全団体「万里の松原に親しむ会」「庄内海岸のクロマツ林をたええる会」のメンバーや、県内総合支庁などの職員に指導を受けながら、枝打



酒田北高の生徒がボランティアでクロマツ林の枝打ちに汗を流した

生態知り保全活動

県内初コウモリフェス

コウモリを身近に感じてもらう「コウモリフェスティバル2010 in 庄内あさひ」が28、29の両日、鶴岡市田妻侯の月山あさひサンチュアパークなどで開かれた。有識者によるミニシンポジウムやコウモリの観察などを通して、コウモリについて理解を深めた。



ミニシンポジウムでコウモリ調査などを行う有識者らが事例発表した=28日、月山あさひサンチュアパーク

庄内地方に生息するコウモリの生態を知ってもらうとともに、多くの市民に自然資源を再発見し、親しむを持つ場を創出することが狙い。全国でコウモリ類の研究や保護活動をする団体「コウモリの会」(山本輝正代表)からフェスティバルの開催依頼を受け、鶴岡市や

あさひむら観光協会などで実行委員会(阿蘇和夫委員長)を組織し、県内では初めて実施した。初日の28日は、月山あさひサンチュアパークで開会し、一般や自然団体、有識者、大学生など庄内一田のほか、県内外から約1000人が参加。はじめに阿蘇委員長が「県内のコウモリは生態や分布などまだ解明されていないことが多い。今回のフェスティバルを通して、コウモリについての知識が深められれば」とあいさつ。アルゴティア研究会員の成本征二さんが「ナ林の古道・六十里越街道」、庄内朝日森林環境保全ふれあいセンター所長の青山一郎さんが「庄内のアノの森が育む生きものたち」と題して講演した。

続いて、「山形県のコウモリ」のテーマで「ミニシンポジウム」が行われ、

日ごろ、コウモリの研究や調査などを行っているNPO法人コウモリの保護を考える会の向山満理事長と大沢八洲勇さん、東北農政局米沢平野農業水利事業所の大槻隆之へ、あさひむら観光協会の上山剛司さんが事例発表した。このうち、向山理事長は「県内には14種のコウモリが生息している。山形は東北6県の中でもコウモリの調査が進められていない。本格的に調査すれば北海道に分布するコヤマコウモリも見つかるかもしれない」と話し、「今後は調査を進めていき、分布状況や生息種、繁殖場所を解明していくことが、コウモリの保全活動につながる」とコウモリの保全について訴えた。

山 形

(5) 2010年(平成22年)7月1日(木曜日)

募集

【西川】朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターは10日(土)に大井沢川で開く朝日自然塾「釣りキチあつまれ!」の参加者を募集。餌の付け方や釣れるポイント、川でのルールやマナーを学びながら釣りを体験する。大井沢セミナーハウスに移動し、昼食後、イワナの話聞く。対象は小中学生の親子で、先着30人程度。さおがない人には貸し出す。参加費は小学生200円、中学生以上300円。6日まで申し込む。同センター0235(58)1730。



地域の情報をお寄せください

本社	023(622)5271
支社	023(653)2230
支社	023(672)5821
支社	0238(23)3222
支社	0238(84)2220
支社	0238(40)2451

旬の味ずらり

鶴岡・農林水産まつり

「緑の鶴岡・農林水産まつり」が16日、鶴岡市小真木原公園で始まった。旬の農産物や鮮魚、キノコなどを販売しているほか、さまざまな体験コーナーも設けられている。写真。

カブ、本格アヒエーしゃばか、民は、販売員たちの「安い、の原産水稲新品種「つや姫」と「おいしいよ」という声のほか、庄内浜で水揚げされたアジ、カレイ、ハタハタなどの鮮魚やイカ焼き、エビ汁、の林業を紹介する「庄内森とマイタケやナメコ、モダンとみどりのフェスティバル」や、庄内フラワーションも開かれ、訪れた市。きょう17日まで。

H22. 10. 17 山形新聞



地元特産品ずらり

酒田市農林水産まつり

「米フェスタ2010酒田市農林水産まつり」が24日、同市の山居倉庫特設会場で開かれ、地元の農産物や特産品を買い求める大勢の家族連れらでにぎわった。写真。

市米消費拡大推進協議会が

主催。JAや生産団体、農産物直売所など計42ブースが並んだ。平田地域特産の赤ネギや庄内柿、紅花若菜、モロヘイヤうどん、庄内風芋煮、イカ焼き、米粉入り焼きそばなどが販売され、食用ホオズキや米粉料理などの試食コーナーは大盛況。市特産の餅米「酒田女鶴」を使った豪華な餅つき大会も人気を集めた。

開会式では「コメの鏡割り」が行われ、県産水稲新品種「つや姫」の新米を先着400人にプレゼントした。

H22. 10. 25 山形新聞

豊かな森を育てよう 民間と行政 協働活動



一本ずつ丁寧に、ケヤキなど植樹。米沢市、米沢信用金庫、米沢市の4者による森づくり

この事業が30日、同市の市営八幡原緑地野球場隣の種荷山で行われ、職員やその家族ら約80人が植樹に取り組んだ。県が企業、地域と連携して各地で取り組む「やまがた緑きずな」の森プロジェクトと、山形銀行と県内4信金による「森づくり事業」の一環。「米沢」として、2015年3月未までの約5年間、森の環境保全に継続して取り組む。活動場所は松くい虫などの被害でマツなどの木を伐採した約2ha。残された木々とのバラ

オヤマザクラをはじめ、ケヤキ、トチノキなど広葉樹の苗木300本を用意。ヘルメット姿の参加者たちは4班に分かれ、一本一本丁寧に植えた。

クロマツ元気になって 下刈り

日本たばこ産業（J.T.）が、県や鶴岡市、地元森林組合など協働で行う森林保全活動「J.T.の森 鶴岡」が30日、同市のいこいの村庄内周辺の山林で行われた。「J.T.の森 鶴岡」は松くい虫による松枯れ被害などを防ぎ、砂防林の機能を高める取り組みで、昨年度から実施。2014年3月まで鶴岡市下川の県有林と市有林、民有林約25haを整備する。本年度2回目の活動となる。



「J.T.の森 鶴岡」で参加者が下刈り作業などを行った。鶴岡市

この日は、J.T.グループの社員や地元住民ら約180人が約1haで下刈りなどを行い、のこぎりやかまを使ってクロマツの成長の妨げとなる草木を取り除いた。西郷小5年田中ひなさん10は「草を刈るのが楽しかった。クロマツが元気に育てばいいと思う」と話していた。

トの二つ、金山町金山の「荘内かねやま絆の森」で30日、関係者約170人がスギの苗木1500本を植樹した。現地は「三英クラフト」が管理する約0.7haの山林で、参加者たちは高さ約50cmのスギの苗木を一本ずつ丁寧に植樹。配られた名札に自分の名前や「大きく育つて」などの願いを書き、植えた苗木に付けていた。



スギの苗木植える 山内銀行と三英クラフト（金山町）の3者が協定を結び、森づくりを通して地域活性化を目指す県の「やまがた緑きずな」の森プロジェクト。保全意識高める 金

クロマツの枝打ち 砂防林を育てる

酒田、ボランティア活動 県庄内総合支庁と酒田市が主催する森林ボランティア活動「砂防林を育てよう」が6日、同市宮野浦のクロマツ林で行われ、市民らが枝打ち作業に励んだ。



クロマツの枝打ち作業に取り組む参加者。酒田市宮野浦

市内の森林を保全している団体などから約120人が参加。クロマツ約500本が植えられている20haの林で、のこぎりを使って下部約1層の範囲にある枝を伐採した。周辺の草刈りや添え木の設置なども行い、見通しのよい環境をつくらせていた。酒田三中の2年和島智佐世さん14は「こうした作業を行い、工夫してクロマツ林を守っていることが分かった」と話していた。

募集

【西川】朝日自然塾は26日(土)に開催する「かんじきトレッキングで親雪体験 囲炉裏(いろり)でマタギの話の聞こう」の参加者を募集。かんじきを履いて舎那山(しゃなさん)まで雪上トレッキングをしながら樹木の冬芽観察や動物探索をする。昼食で大井沢名物の引きずりうどんを食べ、マタギの話を聞く。当日は午前9時、大井沢のセミナーハウス集合。小中学生の親子が対象で、先着30人。参加費は大人600円、子ども400円。18日まで申し込む。朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター 0235(58)1730。

H22. 2. 3 山形新聞

砂防林を手入れ

市民ボランティア120人活動

市民ボランティアによる「砂防林を育てよう」が、酒田市飯森山地区で開かれ、参加者が枝打ち



この活動は、1999年に地元・十坂小児童が行った「砂防林づくり」をきっかけと遊年にかれ市美術館側のクロ

枝打ちに精を出す参加者

タート。先人が残してくれた砂防林を市民自らの手で守り育ていくという意識

醸成に向け、県庄内総合支庁の「出羽庄内公益の森づくり事業」の一環で、

県と市が地元のボランティア団体・企業、一般市民の協力を得、毎年この時期に行っている。

この日は市民ら約120人が参加し、4班に分かれ市美術館側のクロ

マツ林で作業。同支庁森林整備課の梅津勘一課長補佐(下まぎ)と、この個所は県が中心となり2003年ごろに植栽したクロマツが多いという。

梅津さんから「上から5本目以降の枝を切り落とすように」となると指導を受けた参加者は、4〜5歳まで成長したクロマツと向かい合い、次々と下枝をのこきりで切り落としていた。中には幹が太く落とすのに悪戦苦闘している人も、参加者は砂防林づくりの大切さに触れながら、約1時間にわたって枝打ちを体験していた。

庄内日報 H22. 11. 10

クロマツ林で住民ら枝打ち

遊佐・西山地区

遊佐町西山地区の森林整備事業が5日、同地区のクロマツ林で行われ、地域住民らが枝打ちなどに取り組んだ。写

山形新聞 H22. 12. 8



真。近隣住民のほか、西遊佐、稲川、吹浦の各小学校の児童ら約150人が参加。のこきりを使ってクロマツの下部の枝を丁寧に切り落とし、周辺の雑木を除去した。作業終了後、参加者たちは見違えるように見通しがよくなった林を

喜んで眺めていた。毎年参加しているという阿部淳さん(67)「同町菅里」は「潮風を防ぐ防風林を守るのはわれわれの役目。きれいになってよかった」と話していた。町内の住民らでつくる砂丘地砂防林環境整備推進協議会と町、県庄内総合支庁が2001年から毎年この時期に森林整備を行っている。

東北森林管理局 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

〒997-0404 山形県鶴岡市下名川字落合3

電話:0235-58-1730 FAX:0235-58-1731

ホームページ: <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/>